

防衛大学校本科第53期、理工学研究科前期課程第44期、理工学研究科後期課程第5期及び総合安全保障研究科第9期学生入校式における防衛大学校長式辞

(平成17年4月5日)

桜が咲きはじめ、好天に恵まれた本日、本科第53期学生472名、理工学研究科前期課程第44期学生51名、同後期課程第5期学生1名及び総合安全保障研究科第9期学生14名の日本人学生並びに留学生23名の諸君が、ここ防衛大学校に入校しました。防衛大学校教職員一同を代表して心よりお祝い致します。



第7学校長代 西原 正

この栄えある入校式典を挙げるに当たり、公務ご多忙にもかかわらず、今津防衛庁副長官^{注(1)}をはじめ、多数の来賓のご臨席を賜りましたことを衷心よりお礼申し上げます。入校生にとりまして、これからの長く試練となる道を歩む上で、大きな励ましになることと存じます。また全国各地より、遠路はるばる足を運ばれた入校生のご両親、ご家族の皆様には、ご参列のお礼を申し上げますとともに、お子様のご入校をお祝い申し上げます。

防衛大学校は、昭和28年4月に第1期生を迎えて以来、すでに約2万2千名の卒業生を輩出しております。先輩たちは、国際紛争地周辺において、あるいは地震、津波、洪水などの被災地において、過酷な気象条件のもとに国際平和や災害救援のために粉骨砕身して頑張っております。

防衛大学校は、これからの幹部自衛官を志す若者を教育訓練する機関であります。その特徴は、文部科学省が規定する大学設置基準に基づく大学教育を実施しながら、未来の幹部自衛官を育成することを目的としております。

第1学年では教養、語学、専門基礎などを履修しますが、2学年からは人文社会系ないし理工系の専門課程にはいります。そして卒業時には、一般大学と同じ学士号を授与されます。

注(1) 今津 寛

同時に、本科学生は、これからの4年間、勉学に励むかたわら、全員学生舎で規律ある集団生活を送り、起居を共にして、校友会活動などで体力を鍛え、切磋琢磨して、人格の形成に励むことが期待されています。

一般大学が知識を中心とした教育であるのに対して、防衛大学校は体育と徳育も重視します。将来の指揮官には、部下と共に過酷な状況でたたかい抜く強靱な体力と、部下から尊敬される人徳が必要です。

これらを兼ね備えた立派な人物が国防の責任を担うことによって、日本の平和と安全が保たれるのです。そのため、予期せぬ事態に対処できるような伸展性のある柔軟な思考力をもち、沈着に判断のできる指揮官を育成することが必要になります。

入校した本科学生は、学生舎生活にしろ、勉学の仕方にしろ、まずは上級生を模倣して、できるだけ早く防大生活に慣れて下さい。最初は時間のやりくりで四苦八苦するかもしれませんが、この要領を早くつかむことが重要です。

また本校では、著名講師を招いての課外講演、校外の工場、施設見学、国際会議開催、さまざまな競技会、冬のスキー訓練や夏の富士登山、硫黄島研修、あるいは選抜された学生の海外派遣など、一般大学に見られない内容の濃い行事が多々あります。心身ともに、成長するかどうかは、諸君個々の意欲と努力にかかっています。

次に、研究科に入校した諸君は、しばし部隊を離れて、専門的分野の探求に励むことになります。今日の兵器性能の著しい向上や国際政治の激しい変化を見るとき、軍事技術分野にしろ、安全保障や戦略分野にしろ、諸君の研究成果が日本の安全と国際平和に著しく寄与できるよう、努力してくれることを期待します。研究科には、自衛官以外の人たちも加わっていますが、この課程を修める期間に、防衛庁・自衛隊への理解を深められるよう希望します。

最後になりましたが、7カ国からの23名の留学生の入校を歓迎します。本年度から、インドの将校が理工学研究科前期課程に加わりましたが、日本の防衛交流拡充の観点からも喜ばしいことです。留学生には、日本語の習得、日本文化の理解など困難な日々もあると思いますが、持ち前の精神力で克服し、留学経験を意義あるものとし、「国境を越えた武人」となってくれることを期待します。

最後に、本日入校した本科学生が祖国防衛の崇高な道を歩む決意を固めたことに改めて敬意を表し健闘を祈ります。

諸君、入校おめでとう